

写真で見るとかすがい

1/17(金)

子どもの健やかな成長を願って (市民会館)

家庭・学校・地域の連携を深め、子どもたちの健全育成を推進するため、「子はかすがい、子育ては春日井」推進大会を開催しました。大会では、青少年健全育成表彰式や勝川小学校PTAの皆さんによる研究発表の他、俳優・タレントの照英さんによる、「照英流・等身大の子育てトークショー」が行われました。

照英さんは、「男性は簡単な家事や育児一つとっても、褒められるとやる気も出て、もっと協力的になれる」と話すなど、自身のありのままの子育て論を話してくれました。



1/19(日)

熱戦の“ハギトモ杯” (サンフロッグ春日井)

シドニーオリンピック競泳日本代表として出場した萩原智子(通称ハギトモ)さんの名前を冠した水泳大会が行われました。

今年で5回目となる今大会は、約900人の選手が集まり、萩原さんから「自分の納得できる泳ぎを目指してもらいたい」と参加選手にエールが送られました。大会では、コーチや仲間からの熱い声援が飛び交い、熱戦が繰り広げられました。入賞者には萩原さんから賞状と賞品が手渡され、小学1年生の参加選手にはスイムキャップがプレゼントされました。

憧れの萩原さんと触れ合うことができ、子どもたちにとって貴重な機会となりました。



写真で見るとかすがい

創 春日井 2020 想



市長 伊藤 太

春日井市の花「さくら」

春日井市の市章は外枠が桜の花で描かれています。そして、市の花は「さくら」です。市内には桜の名所が、落合公園や水道路、さらには地域の公園など数多くあります。しかし、桜は寿命が短く、「ソメイヨシノ」は樹齢50~60年で老木と言われるそうです。確かに落合公園の桜は80年を超える木が多くなり、幹に穴が空いたり、枝が生いっげたりしている姿が目につくようになりました。

「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」ということわざがありますが、桜の名所として有名な青森県の弘前公園で、リンゴの剪定(せんてい)方式を参考に枝をバッサバッサと切り落とし、樹齢100年以上になる桜をよみがえらせたという桜守の活躍がテレビで放映されたことを思い出しました。

ぜひ、その桜守の方のお話が聞きたいと思っていたところ、このたび縁があって桜守のリーダーの小林さんに春日井市に来ていただき、剪定や施肥、土壌改良、さらには薬剤の散布など、「弘前方式」と呼ばれる管理方法を教えていただく機会を得ました。

当日は造園協会やシルバー人材センター、ボランティアの方など約70名が集まってくださり、活発な意見交換や熱心な実地指導が行われました。

もうすぐ桜が咲く頃となります。今回の経験を生かして、市の花「さくら」に、より一層の愛情を注ぎ、市内各地でいつまでも美しい満開の花が見られることを願っております。